

マニフェスト大賞に ノミネートされました！！



2008年11月7日に全国の首長や地方議員が政策を競い合う「マニフェスト大賞」の授賞式が行われました。今大会では、全国総計429区市町村団体971件の政策が寄せられる中、**雨宮しんごの政策設計書がノミネート、ノミネート授賞されました！**

授賞式では、全国にはわたしと同じように考え、行動し、地方から日本を変えるべく真剣に活動している、活力に満ち溢れた議員たちが多くいることに嬉しさを感じたと共に、こうして地方分権を迎える中、全市民的視野を持たない一部地区の代表ではなく、真の意味でプロフェッショナルの議員が求められ、政策立案能力が試される時代を迎えたことを改めて実感しました。

表彰されるために政策を立案・設計してきたわけではありませんが、今後も成田市のために真剣に活動し、政策提言を積極的に行っていくことで、こうした賞に関わることが出来ればありがたいことだと思っています。

マニフェスト大賞ってNANDA？

マニフェスト大賞はこれまでの政治のあり方を見直し、分析し、計画し、実行する力を持った首長や地方議員を集めての政策提言立案能力を競う全国大会です。審査委員長は北川正恭氏（「地域・生活者起点で日本を洗濯（選択）する国民連合」（略称：せんたく）代表、早大大学院教授、前三重県知事）、過去受賞者には東国原英夫宮崎県知事、中田宏横浜市長などが受賞されています。

ご意見下さい！

市政全般について、雨宮しんごについて等々、どんなことでもかまいません。ざっくばらんなご意見を、お待ちしております！

キリトリ

FAX送信用紙 0476-27-1051

■ご意見をお書き下さい。(メッセージもお待ちしております！)

■ご協力いただける項目がございましたら、印をつけて下さい。

- 出前市政報告会を申し込みたい。
- 会って話しがしたい。
- ポスティングの手伝いができる。
- インターンに参加したい(対象:大学生)
- 雨宮しんごを応援してるぞ！ガンバレ！
- その他()

フリガナ	住所 〒	-
お名前	電話番号	-

FAX:0476-27-1051



平成20年12月定例会 議案

出産一時金が『35万円→38万円』へ！

赤ちゃん1人の出産につき35万円が支給される「出産育児一時金」について、支給額を平成21年1月より、3万円引き上げ38万円とすることを決めました。これは産科医療保障制度(分娩事故で脳性麻痺となった子どもに対して保証金3000万円が支払われる制度)が開始されることにより、保険料掛金(3万円)の負担が新たに発生(出産費用に加算)することが見込まれるため、その分を出産育児一時金に上乘せして支給するものです。

産科医療保障制度については、昨今の医療事故訴訟や産科医不足などの問題も絡み、大急ぎで発足した制度のため、補償内容や対象事例に改善の余地があるものの、子どもを産む環境が整うという意味で、この改訂は歓迎できます。



平成20年12月定例会 一般質問

内申点の公正化に向けた取組みについて

今一般質問では、中学生の内申書(調査書)について取り上げました。

内申書は3年間の成績である内申書を内申点として点数化し、高校入試において、当日のテスト同様、合否の判断基準のひとつとして大きなウェイトを占めています。(21%)

今回、雨宮の調査により、この合否判定に大きく左右する内申書(内申点)が、中学校によってあまりにも大きな評価格差があることがわかりました。

内申点の割合が本人の努力ではなく、出身中学校によって内申点の高低差がついている現状は、必ず払拭しなければなりません。

雨宮しんごは、内申点の公正化に向けた取組みは急務であると考え、教育委員会に是正を訴えました。



詳しくは是非、次ページをご覧ください！！

新年特別号にあたり

高校入試は、受験生にとってはひとつの岐路と言えます。だからこそ日々の努力が報われる公平な制度でなければなりません。

内申書(内申点)が、そもそも生徒個人の学習到達度を表した数値であり、受験を目的とした評価値ではないという成田市教育委員会、各学校の見解も伺えるところですが、現実問題として入試の合否判断材料として約20%ものウェイトを占めている受験制度である以上、わたしは傍観すべき問題ではないと考えます。

今回、調査を進めるに当たり、これほどまで学校間の評価基準が大きく異なり、成績分布に大きな差が生じているとは想像もしていませんでした。むしろこれは高校受験を

迎える子どもたちにも、知るすべのないことと言えるのではないのでしょうか。

個々人の努力ではなく、学校によって点数化された内申点に差が顕著に現れているという事実。

わたしは、学校ごとの特色や個を重視する評価を否定はしません。

ですがただ一点、わたしが切に願うのは、生徒を評価する際には、学校ごと全く違う「ものさし」を使うのではなく、同じ目をもって、公平に、公正に子どもたちを評価してほしい。ということです。

すべては、子どもたちのために。

雨宮しんご

雨宮真吾事務所

事務所：〒286-0018 成田市吾妻 3-48-28
tel：0476-27-5918 / fax：0476-27-1051

info@ama-shin.net
www.ama-shin.net

出前市政報告会！

雨宮しんごは、お一人にでも多く市政の現状・問題点をお伝えするため、出前市政報告会を行っています。「直接、議会報告を聞きたい。」「成田市政、成田市議会に言いたいことがある。」など、報告のみにとどまることなく、ざっくばらんに市政について意見交換が出来ればと思っています。ご希望の方は、メールかFAXにてご連絡ください。お待ちしております！

ごあいさつ

わたしは市議会議員となるまでは、予備校講師として授業を通し小学生・中学生・高校生と接してまいりました。そして現在では市議会議員として教育行政に携わる一方、小学校1年生になった子どもを持つ一父親として、当事者として次代を担う成田市の子どもたちの『教育』のあり方を考えています。

今号では紙面を増やし雨宮がおこなった一般質問を中心に構成しました。人間のすべての基本は「教育から」の考えの下、内在している問題点を指摘しております。是非ご高覧下さい。

昨年10月に「30歳」という節目を迎えました。本年も精力的に、拙紙面はもちろんのこと、出前市政報告会や談話会を通し、透明性のある政治活動に努めてまいりますので、忌憚のないご意見をこれからも頂ければ幸いです。(FAX・メールよりご応募お待ちしております！)

なお「年賀状」は公職選挙法により禁じられておりますので、恐縮ではございますが拙紙面を持って新年のご挨拶に代えさせていただきます。

雨宮真吾

雨宮しんごの政策設計書がノミネート、ノミネート授賞されました！



詳しくは4面をご覧ください！！

- 1978年10月31日生まれ(30歳)
- 元進学予備校講師
- 最年少、過去最高得票で平成19年成田市議会議員選挙に初当選
- 建設水道常任委員会委員
- 新駅・基幹交通網整備促進特別委員会委員
- 市営住宅入居者選考委員会委員
- 廃棄物減量等推進審議会委員

『内申点』ってNANDA!?

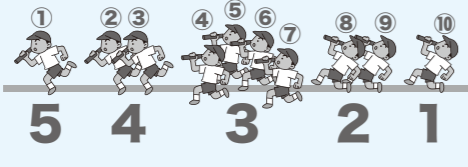
公立高校受験では、2月に行われる学力検査とともに、内申書(調査書)が、評価の対象となります。一般的にわたしたちは、学期末に子どもが持ち帰る『通知表』という形で、内申書の一部を見ています。通知表には「5」や「3」といった数字が記載されていると思いますが、これを1年ごとにまとめて3年分を集計します。

中学校では主要5科目(国語・数学・英語・理科・社会)と実技4科目(体育・技術家庭科・音楽・美術)がありますので…

(5段階)×(9科目)×(3年分)=135点となります。この135点が学力検査500点にプラスされることになります。

相対評価方式のシステム

これは、平成15年度以前の評価方式です。5段階評定の場合、5…7%、4…24%、3…38%、2…24%、1…7%が評価の目安となり、クラスには必ず「5」がつく生徒、「1」がつく生徒が存在することになります。図をご覧ください。



ここに10人の子ども①～⑩がいたとします。この子達の50m走の結果で評価すると右図のようになります。

相対評価のメリット&デメリット

- メリット**
相対評価方式を用いると…
順位をつけて正規分布の割合に当てはめれば良いので評価が容易となり、また、各学校が正規分布の割合に則っているため、中学校間『評価格差』が生まれなくなります。
- デメリット**
『“個々の”生徒に対する学習到達度を、正確に把握するのが困難になる。』
図をご覧ください。③君と④君の差が、仮に0.01秒だったとします。それでも、相対評価では、僅差であれ③君には【4】、④君には【3】と評価されることになります。
- 『他人を蹴落とすことが成績上位への道…?』
成績上位者、つまり【5】をとる生徒が固定化されることになり、上位者がいなくなれば自分が相対的に上位になる。という考えが生まれ、結果として勉学の根幹たる、『自己努力』よりも『他人を蹴落とす』ことが良い評価を得る手段となってしまう恐れがあります。

学力検査500点+内申点135点=635点
(一部高校では内申点を2倍にして算出するなどの例もあります。)


このように、内申点は入試全体から見れば、実に135点と約20%のウェイトを占めていることとなります。子どもにとって『高校入試』は、それこそ人生選択の節目のひとつであり「入試では1問のミスが合否の分かれ目」とも言われています。そうした中、この内申点がお子様本人の努力ではなく、評価が学校によって大きく異なっているとしたら…
学力検査の前に、内申点の時点で差がついているとしたら…
これは合否に多分な影響を及ぼすと言えるのではないのでしょうか。

絶対評価方式のシステム


平成15年度から始まった絶対評価方式は、これまでの相対評価と異なり「他の生徒の成績を考慮に入れず、生徒一人ひとりの成績そのもので評価しようとする」方式です。
つまり、教師が定める基準をクリアしていれば、誰でも【5】が取れるシステムで、「個の重視」に則った制度と言えます。

しかし…この評価方法にも、今回提示する「学校間の評価格差」という極めて甚大な問題が孕(はら)んでいることがわかったのです！

先ほどの50m走を例に思い浮かべてください。ある2つの中学校にそれぞれA先生、B先生という体育の教師がいました。そして、互いに次のような評価基準を設けたとします。



A先生…「がんばって走って、10秒以内なら【5】にしよう。」
これは、クラス全員が達成できると見込んでの基準であり、この基準により、多くの生徒が【5】をもらうことができました。



B先生…「7秒を切ってくるぐらいじゃないと【5】はあげられないな」
これは、クラスの4割ぐらいの生徒が達成できると見込んでの基準であり、一握りの生徒がこの基準をクリア、【5】をもらうことができました。

このように、各学校教職員によって『評価の基準』が異なるため、評価格差が生まれてしまったのです。

雨宮は、今回この問題を指摘、評価の公正化を訴えています！

問題提起

各学校にはそれぞれの特徴があり、もちろん評価者である先生(教職員)も人間ですから、一人一人の学習の達成状況などを評価する際に主観が入り、多少なり評価にバラつきが生じてしまうのは、仕様がよいことであると思います。

ですが、絶対評価である以上、中学校間に評定差があるのは当然ですが、学校間の評価格差が余りにも大き過ぎることは、大きな問題です！
高校入試は『学力検査の点数+内申点数』によって算出されます。

しかし実は、誰もが平等であると信じていた入学試験で、**同じような中学校生活を送ってきた生徒にもかかわらず、中学校が違うというだけで、学力検査の前に点数差が生まれるという恐れが内在しているのです！**

右図をご覧ください。これは、千葉県教育委員会が取りまとめた学習成績分布表です。各学校各教科においてどのような割合で成績をつけているのか一見できます。

『雨宮しんごのHPに、成田市全10中学校の「平成20年度3月卒業見込み者の第3学年の評定」を公開しています！』

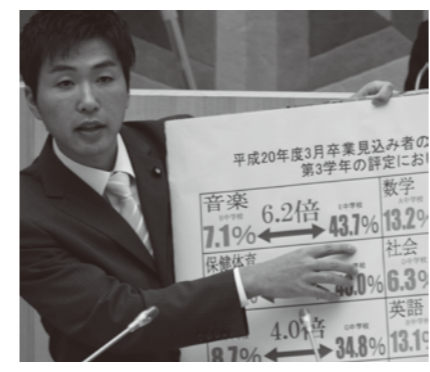
次に下の表『成田市内10中学校における評定「5」の学校間格差』をご覧ください。いずれも格差の目立つものを抜粋したのですが、平成20年度卒業予定の中学3年生の評定を取ってみただけでも、成田市内10中学校において、顕著な評価格差を確認いただけると思います。

評定「5」だけでも、最大18.4倍という評価格差は、いくら技能教科とはいえ、この評価格差が児童生徒たちだけの努力によるものとは、到底理解できません。

また、これ以外にも、全教科評定に「1」がつかない。さらに、5科目において「2」もつかない。学年全員が「3」以上という学校がある一方で、3人に一人の割合で「1」がつく学校があることもわかっています。

つまり、**児童生徒の学習達成状況とは関係なく、各学校の評価者(教職員)の評価基準の差が、こうした学校間の格差を生んでいるのです！**

成田市内10中学校における評定「5」の学校間格差




学校	B中学校	A中学校	評価格差
人数	2人	39人	18.4倍
割合	2.0%	36.8%	

一口メモ
千葉県教育委員会では08年度より、この内申点の『不平等さ』は正のため、独自の計算式を用いて再算出する方針を打ち出しましたが、凸凹すぎる評定を無理やり計算式で「平均化」するだけであり、抜本的解決にはなっていません。

学習成績一覧表
〔学習成績分布表〕

平成20年 1月 25日

千葉県教育委員会



平成20年3月卒業見込み者の者の第3学年の評定

段階別人数及びその割合	国語	社会	数	理	音	美	保健体育	技術・家庭	外国語	備考
5を与えた人数とその百分率	人数 50 % 23.3	人数 45 % 20.9	人数 63 % 29.3	人数 52 % 24.2	人数 94 % 43.7	人数 42 % 19.5	人数 99 % 46.0	人数 10 % 4.7	人数 65 % 30.2	
4を与えた人数とその百分率	人数 61 % 28.4	人数 65 % 30.2	人数 56 % 26.0	人数 55 % 25.6	人数 79 % 36.7	人数 145 % 67.4	人数 83 % 38.6	人数 85 % 39.5	人数 56 % 26.0	
3を与えた人数とその百分率	人数 78 % 36.3	人数 67 % 31.2	人数 72 % 33.5	人数 80 % 37.2	人数 35 % 16.3	人数 20 % 9.3	人数 27 % 12.6	人数 111 % 51.6	人数 70 % 32.6	
2を与えた人数とその百分率	人数 23 % 10.7	人数 32 % 14.9	人数 21 % 9.8	人数 25 % 11.6	人数 5 % 2.3	人数 7 % 3.3	人数 2 % 0.9	人数 7 % 3.3	人数 21 % 9.8	
1を与えた人数とその百分率	人数 3 % 1.4	人数 6 % 2.8	人数 3 % 1.4	人数 3 % 1.4	人数 2 % 0.9	人数 1 % 0.5	人数 4 % 1.9	人数 2 % 0.9	人数 3 % 1.4	
合計人数	215	215	215	215	215	215	215	215	215	

平成20年度3月卒業見込み者の第3学年の評定における分布表

音楽

学校	B中学校	E中学校	評価格差
人数	7人	94人	6.2倍
割合	7.1%	43.7%	

国語

学校	F中学校	H中学校	評価格差
人数	16人	21人	3.5倍
割合	10.7%	37.5%	

内申点の公正化に向けた具体策！！

雨宮しんごのHPに、成田市全10中学校の「平成20年度3月卒業見込み者の第3学年の評定」を公開しています！

- ①**学習成績分布表をHPなど、市民の目に届くところに開示する。**
学習成績分布表は千葉県教育委員会のHPに載っていますが、内申点の公正化に努めるといった趣旨・目的ではありません。これを、成田市HPに公開することは、例えば18.4倍という評価格差の事実を示す情報公開であり、同時に外部に目が触れることによる評価者の自制につながります。(雨宮しんごのHPに公開中！)
- ②**成田市が独自の『評価基準』を設定し、各中学校に促していく。**
中学校ごとの評定格差は、評価者(教職員)の評価基準が凸凹だからに他なりません。その意味では評価者(教職員)の評価基準差を見直し、学校の裁量で決まっているバラバラの『評価基準』を、成田市独自の基準に統一すべきです。(市内教職員による教科勉強会を実施し『評価基準』のすり合わせを行う。『定期テスト』の問題を成田市統一のものにする。など)

- ③**各学校、教職員の評価基準を明確にする。**
教職員がテーマや課題、テスト毎に何を『評価基準』として、判断するのかを事前に文書などで明らかにしておけば、この問題はなくなります。印象論ではない明確な説明責任を果たすためにも必要不可欠といえます。
- ④**高校受験(内申点などのシステムについて)に関する情報をパンフレット化に保護者に配布する。**
『そんなの知らなかった』声をよく耳にします。複雑化する特色化選抜入試のシステムも含め、内申書が点数化され、内申点として高校入試に用いられるシステムを解説したパンフレットを作成し、理解の深化に努めることは、今すぐにもできる対策です。